

家庭教育通信

10歳からの子育て
～思春期の入り口に立つわが子～ 4

第52号 平成28年11月11日発行

「片づけられない子」

教科プリント、お知らせ、テスト、塾のテキスト、ユニフォーム、ゲーム、漫画、脱ぎ捨てた服、たんであげたのにしまわない洗濯物…何度言っても片づけられないのはどうして？

「片づけられない子をどうしたらいいか」は家庭教育学級でも人気のテーマです。一人の講師は、片づけられない理由は子どもの性格の問題ではなく、家庭内のシステムの不在だと言っています。

小学校中学年にもなると、子どもたちの活動範囲は広がり、持ち物もあれやこれやとどっと増えてきます。きょうだいがいる場合はさらに加速するでしょう。家のなかはものや紙であふれます。「〇〇どこにしまったの」「どうしてここがないの」「捨てたでしょう」「ほら、ここにあったじゃない」「いつもママは捨てちゃうんだから」が繰り返されます。こどもがちらかしたものの、片づけられないものを親が片づけ、学校生活に支障のないように整えていく時期はもう、そろそろ卒業したいものです。

一人でも時間割に沿って学習準備が整えられるように、私たちはこどもたちが自分で片づけられるルールを子どもと一緒に作っていききたいものです。

そのためには

- 家族みんなが使うものは集中管理し、別々に持たない。
- 校帽、上着、洗うものは帰宅後すぐに定位置に
- 大事な学校からのお知らせなどは決まったファイルに。
- きょうだいのいる場合はそれぞれの子が自分の好きなカラーを決める。歯ブラシもファイルもボックスもお兄ちゃんはブルー、私はオレンジと。

片づけは、大人でも得意な人と苦手な人がいると思います。「常に綺麗な部屋であること」を子どもに求めるのは、少し酷かもしれません。なかには、ある程度部屋が汚くなるまで放っておいて、いよいよ足の踏み場がなくなるかという一歩手前で一気に片づけるというタイプの子もいます。そういった子どもの性格をある程度尊重して、子どもに任せておくのです。

いずれにしても、片づけができたときは、「気持ちいいね」と一声かけてあげましょう。

庶務課社会教育担当

TEL (3647) 9676